

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

変更しないでください

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	平成29年度の事業実績		平成29年度の目標達成度		平成30年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)	達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由	
1 家庭へ向けた取り組み	1	10	(1)ブックスタートの推進	子育て支援政策課	ブックスタート事業	「単独型子育て支援センター」を主会場として、絵本などが入ったブックスタートバックをプレゼントするとともに、読み聞かせやほんの選び方をアドバイスする。	対象者数:10,341人 引換者数:7,024人 引換率:67.9%	B	主会場である単独型子育て支援センターで引換えできなかった対象者への救済措置として、各保育園での配布も実施し、平成29年度当初の数値目標をほぼ達成できたため。	B	引き続き、昨年とほぼ同数の参加数を目指して事業を継続する。	
	2	11	(2)「子どもといっしょに読書タイム」の推進	資料サービス課	「子どもといっしょに読書タイム」の推進	保護者に読書の意義や大切さを伝えるとともに、家庭で実践してほしい働きかけを提案し、呼びかけを行う。	シニア世代を対象に、読み聞かせの効果をもPRするためのポスター作成、及び図書館、公民館での掲示	B	シニア世代の活動拠点となる図書館、公民館にポスターを掲示することにより、読み聞かせの利点を伝えることができたため。	B	シニア世代への働きかけを引き続き行う。	
							「すくすく読み聞かせダイアリー」の配布	B	読み聞かせの記録を残すことができる書き込み式の手帳を増刷した。1,993部を市内図書館に送付し、あかちゃんおはなし会等で配布した。	B	「子どもといっしょに読書タイム」推進に役立てるため、配布を継続する。	
2 地域での取り組み	3	12	(1)地域の子ども読書活動情報の紹介	子育て支援政策課	「さいたま子育てWEB」等による情報提供	読み聞かせ、おはなし会などの活動について、「子育てきっかけ応援ブック」やホームページ「さいたま子育てWEB」などで情報を提供する。	「子育てきっかけ応援ブック」の発行	B	予定どおり30,000部作成し、配布したため。	B	引き続き、必要数を作成し、配布する。	
							「さいたま子育てWEB」の運用	B	WEBトップページの閲覧数1,129,667PVを達成したため。	B	引き続き、昨年とほぼ同数の閲覧数を目指して事業を継続する。	
	4	12	(2)公民館での子ども読書活動の推進	生涯学習総合センター	公民館文庫、おはなし会等の実施	※別シートに記入してください						
	5	13	(3)児童センターでの子ども読書活動の推進	青少年育成課	児童センターにおける読書環境の整備	※別シートに記入してください						
6	13	(4)うらわ美術館での子ども読書活動の推進	うらわ美術館	「本の出張授業」の実施	美術館の職員がししめ絵本や造形的に芸術性の高い本を小学校へ持参し、鑑賞学習の補助をする。	本の出張授業	A	平成28年度(17校55回1,690人)を上回る依頼のあった18校(71回、2,145人)で100%実施できたため。	B	各学校からの要望に合わせて、継続的に実施していく。		
							B	各図書館の児童・地域担当職員を集め、児童書の見計らい選定会議を毎週金曜日、年間では47回実施し、子どもの成長に合わせた適切な資料を収集するよう努めた。	B	引き続き、定期的に児童書の見計らい選定会議を実施し、精選した児童書収集を行う。		
7.1	14	(1)読書環境の整備・充実	資料サービス課	図書館の整備・充実	乳幼児、小・中・高校生を対象に、発達段階に応じた収書、調べ学習に対応できる蔵書構成に努める。	児童書の見計らい選定会議の定期的な実施	B	各図書館の児童・地域担当職員を集め、児童書の見計らい選定会議を毎週金曜日、年間では47回実施し、子どもの成長に合わせた適切な資料を収集するよう努めた。	B	引き続き、定期的に児童書の見計らい選定会議を実施し、精選した児童書収集を行う。		
							管理課	さいたま市図書館施設リフレッシュ計画	B	設計・工事を予定どおり完了することができた。	B	引き続き、リフレッシュ計画に基づき、老朽化した図書館の改修工事等を計画に進めていく。
8	15	(2)本や図書館に親しむイベントの開催	資料サービス課	児童向けイベントの実施	読書や図書館の利用について、子ども達の興味や関心を高めるイベントを開催する。また、大人を対象に、子どもへの読書支援を目的とした講座を開催する。	中・高校生を対象にした図書館ボランティア「さいたま・ライブラリ・サポーターズ」(リブサポ)の実施	A	実施図書館を6館(中央、大宮、春野、与野、桜、武蔵浦和)に拡充して開催し、昨年の参加延べ人数49人から112人に増加し、中・高校生に図書館への来館を促す働きかけを行うことができた。	A	実施図書館を11館(中央、大宮西部、北、大宮、春野、与野、桜、北浦和、武蔵浦和、東浦和、岩槻)に拡充して開催する。		
						児童向けの行事開催	A	全館で1,367回イベントが開催され、27,196人が参加した。昨年度と比べ21回開催数を増やして実施することができている。	B	各図書館においてイベントの開催を継続する。		
						読み聞かせや本に関する講座開催(一般対象)	A	全館で40回イベントが開催され、750人が参加した。昨年度と比べ7回開催数を増やして実施することができている。	B	各図書館において講座の開催を継続する。		
9	15	(3)本や図書館に関する情報発信の充実	資料サービス課	児童向け刊行物の発行	ブックリストや情報誌を作成し、各図書館で配布する。市立小・中・高等学校等へ情報提供する。	「本は王さま」の作成	B	記者発表を行い、子ども読書の日を記念して「本は王さま2017」を4,200部発行し、図書館ホームページにも掲載した。また、「本は王さま2018」の作成を行った。毎年新しく出版される児童書の中から図書館員が選ぶおすすめの本を紹介することができている。	B	「本は王さま2019」の編集・作成を行う。		
						「としよ丸しんぶん」(年4回)発行	B	年4回(4月、7月、10月、1月)各2,000部発行し図書館で配布及び図書館ホームページに掲載した。また、市立小学校への配布も行った。	B	年4回の作成・配布を継続して行う。		
						「はび」(年4回)発行	B	年4回(4月、7月、10月、1月)各2,000部発行し図書館で配布及び図書館ホームページに掲載した。また、市立中学・高等学校、市内の県立高等学校への配布も行った。	B	年4回の作成・配布を継続して行う。		
10	15	(4)さいたま市ゆかりの児童書の収集と紹介	資料サービス課	「さいたまゆかり」コーナーの充実	石井桃子と瀬田貞二を中心に、さいたま市ゆかりの児童文学者の著作や関連資料の収集、展示、講演会や紹介を行う。	中央図書館開館10周年記念行事として、石井桃子生誕110年記念講演会を開催	B	「映像で振り返る石井桃子さんの生涯」を開催し、定員60人のところ50人が参加した。また、講演録を作成し図書館ホームページに掲載した。	C	単年度事業として終了		
						石井桃子生誕110年記念展示の実施	B	展示スペースに11月21日～12月8日まで展示を行い、資料を作成した。資料は図書館ホームページに掲載した。	C	単年度事業として終了		

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

変更しないでください

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	平成29年度の事業実績		平成29年度の目標達成度		平成30年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
3 図書館での取組	11	16	(5)障害のある子どもへのサービスの充実	資料サービス課	バリアフリーサービス	障害のある子どもたちに、障害に応じた読書サービスを行う。	ボランティア団体による点訳絵本の作成	B	中央図書館のボランティアグループの活動により、36冊の絵本を点訳した。	B	ボランティアグループと連携し、点訳絵本の受入れを進める。	
							特別支援学校・特別支援学級を対象とするおはなし会の実施	B	特別支援学校への訪問や図書館への招待を行い、市内図書館5館で合計18回、263人に集会行事を行った。	B	学校からの依頼に応じて随時実施する。	
							マルチメディアデジター、LLブックの収集	B	中央図書館他でマルチメディアデジターを8点、LLブックを1冊収集した。	B	マルチメディアデジター、LLブックの選書と収集を行う。	
	12	16	(5)多文化・多言語サービスへの取組	資料サービス課	多文化・多言語サービス	日本語を母国語としない子どもへのサービスとして、児童向けの外国語資料の収集や多言語によるおはなし会を開催する。	多言語おはなし会の実施	A	5館で合計11回実施し、581人が参加し、昨年度より参加人数が125人増えた。	B	各館で多言語によるおはなし会を継続して行う。	
							外国語児童書の展示	B	7館で合計7回展示を行った。	B	各館で外国語児童書の展示を行う。	
							外国語児童書の収集	B	各館合計で556冊の外国語児童書を新たに受入れした。	B	外国語児童書の収集を行う。	
	13	16	(7)学校図書館への支援の充実	北浦和図書館	学校図書館支援センター事業	小・中・高等学校及び特別支援学校、教育相談室の授業や取組を図書の側面から支援する。	学校図書館向け図書への団体貸出の実施	A	貸出点数が昨年度と比べて433点増加した。	B	小・中・高等学校、特別支援学校、教育相談室への団体貸出を継続していく。	
							学校図書館からのレファレンス対応	B	申込みのあったレファレンスすべてに回答した。	B	平成30年度においても継続していく。	
							学校図書館を充実させる取組	B	おはなし会プログラム例などを教育研究所ホームページの市立図書館のページに掲載した。	B	読書活動に関する情報や学校図書館を充実させるための資料の提供を継続していく。	
	14.1	16	(8)学校との連携の推進	資料サービス課	学校との連携推進	学校と連携して児童生徒の読書活動を推進する取組を行う。	読書手帳の配布	B	「とよ丸どくしょてちょう(1~2年生向き)」「(28,000部)を増刷し、図書館と学校で配布。市立小学校1年生には全員配付した。また「3~6年生向きとよ丸読書手帳」(15,000部)も増刷し、図書館で配布した。	B	子どもが読書習慣を身に付けるための導きとなるよう、読書手帳の利用を進めていく。	
職場体験の受入れ							C	各図書館で職場体験学習のため、163人(昨年度215人)を受入れたが、図書館改修工事の影響もあり、受入人数は昨年よりも減少した。	B	図書館を深く知り、職業体験として学ぶ機会となるよう、今後も受入れを実施する。		
学校訪問(図書館職員によるブックトークや読み聞かせ)の実施							A	各図書館から職員が学校を訪問し、合わせて4,129人(昨年度3,699人)に本の紹介等を行い、対象人数は昨年よりも増えた。	B	児童が本に親しみを持てるように、学校と連携して訪問を行う。		
学校招待(図書館見学他)の実施							A	各図書館において図書館見学や町探検で来館した児童に、図書館案内や貸出し体験を行い、合わせて5,364人(昨年度4,191人)となり、対象人数は昨年度よりも増えた。	B	児童が図書館に日常的に来館し、読書や調べものに利用する機会が増えるように、学校と連携していく。		
14.2			大宮西部図書館	小・中学校向け学級文庫用図書の貸出	身近に本がある環境を作り不読者の割合を減らすため、学級単位で利用する図書のセットを作り対象の学年に対して学級数分のセットの貸出をする。	A	平成29年度は小学校26校(昨年度20校)、中学校20校(昨年度24校)に加え、新たに特別支援学校2校に対して貸出を実施した。	B	引き続き、学校と調整して貸出を行う。			
15	17	(9)保育所・幼稚園との連携の推進	資料サービス課	保育所・幼稚園との連携推進	保育所や幼稚園の園児へ読み聞かせや絵本の貸出を行う。また、団体利用者カードの登録を受け付け、団体貸出を行う。	保育所や幼稚園の園児を対象におはなし会を行う。	B	各図書館において保育所・幼稚園への訪問や図書館招待を、合わせて6,511人(昨年度7,083人)の園児に行ったが、対象人数は昨年度よりも減少した。	B	園児がおはなしや絵本に親しみを持つように、保育所や幼稚園と連携していく。		
						保育園や幼稚園へ団体貸出を行う。	A	各図書館において、保育園や幼稚園を対象に15,274冊の貸出しを行い、前年度よりも2,321冊増えた。	B	団体利用のPRや資料の提供を引き続き行う。		
16	17	(10)子どもの読書活動推進に関わるボランティアの支援	資料サービス課	子どもの読書活動推進に関わるボランティア支援	子どもの読書活動に関わるボランティアを支援するため、情報提供や講座の開催を行う。	『ボランティア向け読み聞かせブックリスト』の配布及び、続編の作成	A	プレスリリースを行い、4月19日から配布を開始した。当初3,000部発行したが、市内外から問い合わせがあり反響があった。また、年度内に科学絵本を中心にリストアップした続編を作成した。	B	平成29年度に作成した「読書読み聞かせボランティア向けブックリスト」を配布し、読み聞かせ活動に役立つようPRする。		
						読み聞かせボランティアを対象に読書指導や講座を開催する。	A	各図書館において講座を開催したり、図書館職員が学校の読み聞かせボランティアを指導したりするなど、延べ35回実施し、621人が参加した。	B	ボランティアの経験年数に見合う指導により、スキルアップが図れるように、指導的役割を担えるボランティアグループと連携しながら、支援を行う。		
						図書ボランティア等の活動を希望する方へ情報を提供する。	B	学校や公民館等へボランティア受入れ希望調査を行い、市のホームページで情報を公開した。	B	読み聞かせや図書の整理作業のボランティアを希望する方へ、活動場所を案内できるように、情報収集を行う。		
17	17	(11)児童サービス担当職員の養成	資料サービス課	児童サービス担当職員の研修	児童サービス担当職員の育成を行うため、内部研修の実施、及び外部研修への参加を促す。	児童サービス担当者研修会の実施	B	児童サービス担当者の初任者向け研修を年間4回開催した。	B	経験や情報の共有を図り、各館における案内や集会行事に役立つよう、年間4回の研修会を開催する。		
						児童サービス研修会への参加	B	各図書館から埼玉県図書館協会主催の研修会に年間5回参加した。	B	児童担当職員が基礎的な知識や技術を身に付けられるように、今後も研修会に参加する。		
						児童図書館員養成専門講座への参加	B	図書館から1名、日本図書館協会主催の研修会(前期・後期)に参加した。	B	指導的役割を果たせる児童担当職員を育成するため、今後も研修会に参加する。		
18	18	(1)学校図書館の環境整備	指導1課	学校図書館の環境整備	児童生徒の主体的な読書活動や学習を支援できるように、図書の配架、推薦図書の展示、室内レイアウト等の環境整備に努める。	B	すべての市立小・中学校において司書を中心に年間を通して利用しやすい学校図書館づくりがおこなわれた。	B	今後も「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての環境づくりを進める。			
19	18	(2)読書習慣の形成と自主的な読書活動の活性化	指導1課	読書に関する取組の充実	児童生徒の読書への関心を高め、読書活動の推進を図る取組を行う。	B	すべての市立小・中学校において「子ども読書の日」「読書週間」に関するイベントや独自の読書指導の工夫が行われた。	B	今後も研修会等を通して実践の紹介、情報共有などを行い読書へのさらなる興味・関心を高めていく。			
20	19	(3)学校図書館を活用した授業などの学習指導の充実	指導1課	学校図書館を活用した授業の充実	学校図書館の機能を活用し、児童生徒の主体的で意欲的な学習活動を支援する。	B	市立小・中学校における学校図書館や図書資料を活用した授業の総時数が昨年度同様70,000以上を保っていた。	B	今後も研修会等を通して実践の紹介、情報共有などを行い、学習指導の充実を図る。			

「さいたま市子ども読書活動推進計画」事業実施状況調査表

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

変更しないでください

施策	No.	計画掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	平成29年度の事業実績		平成29年度の目標達成度		平成30年度の事業の方向性	
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
4 学校での取組	21	19	(4)学校図書館コンピュータの整備による機能的な学校図書館運営の支援	教育研究所	学校図書館のICT環境整備	耐用年数を経過した学校図書館コンピュータの入替を順次行うとともに、平成31年度には学校図書館コンピュータのセンターサーバ入替を行い、機能的な学校図書館運営に努める。	耐用年数を経過した市立小・中・特別支援学校50校の学校図書館コンピュータの入替を計画どおり行う。	B	耐用年数を経過した市立小・中・特別支援学校50校の学校図書館コンピュータの入替を計画どおり行った。	B	耐用年数を経過した市立小学校13校の学校図書館コンピュータの入替を行う。	
	22	19	(5)学校図書館ネットワークの充実	指導1課	学校図書館資源共有ネットワーク事業	学校と公共図書館、教育研究所を結ぶネットワーク便を運行する。	市立学校と教育研究所、公共図書館を結ぶネットワーク便を運行する。	A	ネットワーク便の運行を年33回に増やし、巡回場所に市立高等学校4校を加えた。	A	各学校の需要に見合う運搬量を確保するよう、運搬方法の改善を図る。	
	23	20	(6)保護者や地域のボランティアとの連携による学校図書館の充実	指導1課	学校図書館における保護者や地域との連携	保護者や地域と連携し、学校図書館の環境整備や児童生徒の読書活動の推進を図る。	各学校における学校図書館環境整備や読書活動におけるボランティアの活用	B	継続して市立小・中学校でボランティアを活用した取組をおこなった。	B	今後も様々な面で、保護者、地域との連携を進めていく。	
	24	20	(7)「子ども読書の日」に関する取組の充実	指導1課	「子ども読書の日」に関する取組の充実	学校における「子ども読書の日」に関する意識を高め、取組を充実させる。	各学校における「子ども読書の日」に関する読書イベントの実施	B	すべての市立小・中学校で「子ども読書の日」に関わる取組を行った。	B	各学校で様々な取組が行われており、研修会等を通して情報交換をするなど取組の継続と充実を図る。	
	25	21	(8)市立高等学校の読書活動の推進	高校教育課	市立高等学校の読書活動の推進	生徒の読書離れの対策を市立図書館と連携して取り組んでいく。	各学校における読書推進キャンペーン等の開催	B	各学校で図書委員のおすすめ本を紹介する冊子やポップの作成をした。	B	本の紹介用ポップを市立4高校と市立図書館相互で作成し、交換して展示をする。	
5 保育園や幼稚園での取組	26	21	(1)絵本に親しめる環境づくり	保育課	絵本等の読み聞かせの充実	日常の保育の中に、絵本等の読み聞かせの機会を多く作る。	毎日の保育の中で、絵本の読み聞かせを実施した。	B	日常的に絵本に親しみ、子どもの世界が広がった。	B	絵本の読み聞かせや、物語の世界に親しむとともに、児童の想像力を養い、豊かな言葉の獲得につなげていく。	
	27	21	(2)保護者へ読み聞かせの大切さを発信	保育課	保護者への啓発	1日保育士体験を通して、読み聞かせの大切さのほか親子のかかわりの楽しさを伝える。	1日保育士体験・保育参加で保護者に対して絵本の読み聞かせ体験を行った。	B	絵本を通して、家庭における親子の会話や触れ合う時間が増えた。	B	1日保育士体験・保育参加で、保護者に絵本等の読み聞かせを体験してもらい、体験を通して子どものかかわりの楽しさを伝えていく。	
	28.1	21	(3)地域との連携推進	保育課	図書館・公民館や地域のボランティアとの連携	図書館や公民館による読み聞かせ会に参加したり、地域のお話ボランティアを保育所に招いたりして、地域との連携を図る。	図書館職員による読み聞かせ等の実施(53園)	A	昨年度より21園多い参加園数であったため。	B	昨年よりもやや上回る園数を目指して、事業を継続する。	
							地域のボランティアによる読み聞かせの実施(30園)	B	ほぼ例年どおりの参加園数であったため。	B	昨年よりもやや上回る園数を目指して、事業を継続する。	
	28.2	21		保育課	地域支援事業の充実	保育所の地域支援事業の充実を目指す。	地域子育て支援センターに来園した親子に、絵本・紙芝居の読み聞かせを実施した。	B	地域子育て支援センターに来園した親子が、読み聞かせを楽しみにしていた。	B	地域子育て支援センターにて、読み聞かせの時間を設け、親子ともに楽しめる時間をつくる。	
29	21	(4)保育士などの資質向上	保育課	職員研修の実施	保育士の資質向上のため、読み聞かせなどの研修会を実施する。	紙芝居をテーマにした研修会の実施(年1回)	B	研修で学んだことを、保育実践で生かすことができたとともに、資質向上につながった。	B	今年度は紙芝居をテーマにした研修を年2回実施する。		
計画の進行管理	30	9	さいたま市子ども読書活動推進計画に関する事業実施状況調査	資料サービス課	さいたま市子ども読書活動推進計画に関する事業実施状況調査	調査を毎年実施し、事業の充実を図る。	「さいたま市子ども読書活動推進計画」に係る所管課の事業実施状況を調査し、さいたま市ホームページへ公開した。	B	各課の取組状況を取りまとめ、フィードバックすることで、現状の課題と次年度以降の目標設定に役立てることができた。	B	「さいたま市子ども読書活動推進計画」に係る所管課の事業実施状況が確認できるよう調査を行う。	
	31	9	読書調査(市立小・中・高等学校対象)	資料サービス課	読書調査の実施	市立小・中学生を対象にした読書調査を、さいたま市学習状況調査により実施	B	昨年度に引き続き全校調査により、小・中学生の読書状況を調査した。	B	質問内容を一部見直し、継続して調査を行う。		
						市立高校生を対象にした読書調査を図書館のアンケート調査により実施	B	昨年度に引き続き市立高等学校4校を対象に、抽出により高校生の読書状況を調査した。	B	継続して調査を行う。		

※上記以外に、子ども読書に関する事業の実施がある場合は、下の行に追記してください。
